



総合的取組みに向けて
近年、多様化する精神科医療に合わせた努力も求められてきています。当院でも、対人関係のぎこちなさや日常生活の課題に対処する能力の向上を目指す「SSTⅡ社会生活技能訓練」を取り入れたリ、退院後のリハビリテーションやケアの一環として、デイケアや訪問看護なども積極的に取り組んでいます。そういった取り組みが一日も早い回復につながればと願っています。



できるような、対象の理解に主眼をおき、看護とは何かを常に考えながら学び、成長してもらえぬ研修を企画しています。そういった努力の積み重ねや、深い愛と思いやり、触れる手の温もりが支えとなつて、心のやすらぎへとつながるのではないかと考えています。ケアには愛情、そしてぬくもりを欠くことはできません。看護師であるまに一人の人間として日々成長することを目指しています。

心のこもった満足度の高いサービスを目指して

精神科看護の流れ

現在、日本の精神医療の流れは入院中心主義から地域医療へと変わってきています。以前は「閉鎖病棟から外来までの各段階で医学管理が必要で、家族・保護者も患者を観察し、生活指導や服薬の確認などの医療管理を行う」とうたわれ、病院内での処遇も管理的で暗く、閉鎖的なイメージの時期もありました。しかし、近年は「人権を十分に尊重し、地域社会で生活を続けながら必要な援助ができるようにする」と、治療のあり方が大きく変化し、開放的で明る

継続看護を目指して

「チーム医療により、必要とされる看護サービスを提供し、心と体の回復を目指し社会復帰を支援する」ことを基本理念とし、以下の4点を柱とした看護を実践しています。

- ①人としての尊厳を重んじる
「患者さん」と一括りに考えがちですが、それぞれの価値観、人観を持ち、個性ある人間として生活を送っています。たまたま今は病気がかかっているだけであって、それが

患者さんの全てではありません。一個人として尊重され、自分のイメージする生活を送りたいと望んでいます。現在病気を抱えている患者さんが病気を克服するために、どのように意欲を高めてもらうか、前向きに生きる力につなげていくか、コミュニケーションを通じて理解しあえる関係が形成され、そこから意欲や力を育てていくのではないかと考えています。

②看護体制の確立を目指す

固定チームナースングを行っています。6カ月〜1年を1つのサイクルとしたチームを編成し、受持ち看護婦が継続して責任を持ち、個別的なケアを提供しています。また、他職種をまじえて、各々専門的立場から意見交換（ケースカンファレンス）を行い、個別のプランに反映させ、心身の活性を図り自立支援を行っています。

③療養環境の整備をする

病棟内を清潔に保ち、規則正しく時間を送るなど基本的な整備に加え、当院では病棟機能を分化することで療養環境の整備をしています。病状の把握と鎮静・休養を目的に、急性期に対応できる「アセスメント病棟」。治療・介護と共に生活技術の獲得を支え、生活活動範囲の拡大と支援を



行う「精神療養病棟」。痴呆疾患の方に対し、身体的ケア・内科的ケアを提供するだけでなく、日常生活上で問題となる行動への対処等もする「老人性痴呆疾患療養病棟」など、患者さんの状態に合った療養環境を提供しています。また、もちつき、梅園見学、ひな祭り、海水浴、夏祭り、紅葉狩り、クリスマスといった季節のレクリエーションも療養環境の整備に一役買っています。

④人材育成と教育的環境を整える

看護の原点といわれる精神科看護です。スタッフ教育は「人間とはなんだろうか」という全人的な見方が

精神科・神経科での治療

精神科・神経科の病院で一般的に行われている治療方法についてご紹介します。治療には、①薬物療法②精神療法③作業療法・レクリエーション療法などのリハビリテーションなどがあります。

①薬物療法

向精神薬を用います。向精神薬には数種類があります。抗精神病薬は、幻覚妄想や精神運動興奮などの精神病的状态に効果があります。他にも、抗うつ薬、抗躁薬、気分安定薬、睡眠薬、抗てんかん薬、脳循環・代謝改善薬などがあります。

②精神療法

治療者（医師など）との面接を通じて心の安定をはかり、病気に對する理解を深めるものです。代表的なものとして2つ挙げてみます。
(a) 支持的な療法
助言が中心です。本人の不都合や



欠けている部分を援助していきます。また、本人が表現し、その表現に付き添っていくことで抑圧された心理を知るといった効果もあります。
(b) 洞察的な療法
過去を探っていくなど、本人自身と共に本人の病理を見ていくものです。(神経症などに効果的です)
③作業療法・レクリエーション療法
入院中から、様々なリハビリテーションが展開されます。作業療法や集団療法、SST、レクリエーションや外出泊などがあります。
退院後は、精神科デイケアや授産施設、共同作業所などに通う方も多くなつてきていますが、これも自立に向けてのリハビリテーションです。